

## 鼉太鼓

鼉太鼓は、今でも使われている日本最大の儀式用の太鼓で、年に一回行われる春日大社の若宮おん祭の際、屋外の舞楽演奏をします。この祭りの間、若宮の祭神への奉納として演じられる、伝統的な舞楽の伴奏をします。この太鼓は、高さ 6.5 メートル、色を塗った木製で、牛革製の鼓面を調緒で留めています。太鼓の表面に描かれた、伝統的な巴という渦巻きのような印は、神道の神社と密接なつながりがあり、何世紀にも渡って、日本で使われてきました。

最初の太鼓は鎌倉時代(1185-1333)に作られ、鎌倉幕府を開いた高貴な武将、源頼朝(1147-1199)が春日大社に寄進しました。最初の太鼓は数世紀に渡って儀式で用いられ、交換が必要になり、1976 年に複製が作られました。この太鼓のオリジナルは、日本政府から重要文化財に指定され、国宝殿の 2F の展示室にあります。

太鼓の周りの木彫りの装飾の意匠は、陰陽道に基づいています。元々、5 世紀から 6 世紀の間に中国から日本へ伝わったこの哲学は、宇宙にある互いに対立する気が補完し合い、相互につながっているという性質について説明しています。最初の太鼓には、男性または陽の要素を表わす龍の装飾彫刻や太陽の飾り、2 番目の太鼓には、女性または陰の要素を表わす鳳凰の装飾彫刻と月の飾りがあります。